

カラスザンショウから抽出される香り成分の利用可能性

1 背景・目的

近年、多様な里山資源を活かした森林サービス産業への注目が高まっており、その取り組みの一つとして、県内の精油製造者等が香り成分を含む樹種の利用を進めている。このような中、香り成分が活用できる新たな樹種を見出す研究として、和精油で人気のあるサンショウと近い香りを有すると考えられる、カラスザンショウの香り成分の利用可能性について検討する。

2 技術のポイント

- (1) 果実からの精油の抽出については、赤く色づき始めると抽出率が低下する傾向が認められるため、果実は9月上旬頃～9月下旬頃の赤く色づき始める前のものを使用する(写真)。
- (2) 果実の精油の成分は、1,8-シネオール(呼吸器系疾患の改善効果等)が多く認められるほか、サンショウ精油の主な香り成分であるリモネン(抗菌効果等)や、ミルセン(抗炎症効果等)等も含まれる(図)。



写真 カラスザンショウ果実

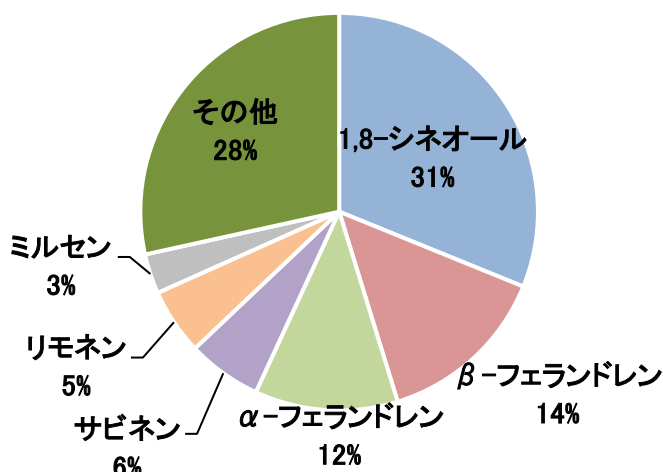


図 果実の精油の含有成分割合

3 成果の活用と残された問題点

- (1) 果実の採取適期や精油の成分は気候や立地条件等により異なる可能性がある。
- (2) 当年枝からの精油抽出も可能であるため、詳細な抽出率や成分及び、適切な採取時期、採取方法を検討する必要がある。
- (3) サンショウ精油の代替としての利用が期待されるほか、新たな和精油としての価値を見いだせる可能性もある。